

平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

市川市立鬼高小学校

1 学校紹介

市川市立鬼高小学校は、各学年5クラス、全30学級で、全校児童数は950名ほどの大規模校である。

2 研究主題

自分の考えを豊かに表現し、学び合う子供の育成

～図書館を活用した国語科研究を通して～

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

【国語】・A問題、B問題とも全国平均をやや上回っている。B問題3の一「複数の本や文章などを読んで読む問題」では、全国差が大きくプラスとなっており、文章を比べて読む力がついている。

・A問題の漢字の問題で、全国平均を下回っているものがあつた。B問題3の二の条件付き作文の問題では、全国差がかなり開いてマイナスとなっている。無解答率がかなり高く、県や全国と比較しても差が出ている。

【算数】・A問題では、全国平均をやや上回り、基礎・基本が定着している。しかし、中位層の中にも若干二極化が見られる。B問題は、上位層から下位層まで幅広い層に分布している。実態に対応した手立てを丁寧に行う取組が必要である。

(2) 学力向上のための取組

- ・あらかじめ計画されている校内研究の時間を通して授業改善を図っている。
- ・学力調査の結果から、本校児童は条件付き作文に課題があつたため、本校の研究では、図書を活用しながら、学力調査で課題であつた「様々な条件で書く力」を付ける取組を発達段階に合わせて行った。
- ・国語Aの漢字の問題に課題があり、その課題に対応するため、今年度から週3日、朝の短時間学習で漢字を中心とした基礎・基本の学習を行い定着を図っている。
- ・義務教育9年間を見通した学習の習慣付けを図る目的で、六中・稲荷木小・本校で連携をとっている。「授業の約束『これだけは！』」の全教室掲示、全家庭配付の「家庭学習の手引き」など、ブロックで共通の取組を行っている。
- ・市川市では、補習による基礎・基本の定着や、放課後における学習習慣の確立を目指し、「校内塾まなびくらぶ」という市独自の施策を実施している。(本校では、2年生、3年生の希望者を対象)

(3) 加配教員の活用について

- ・学力向上推進事業加配1名、市の加配1名を低・高学年に1名ずつ配置した。高学年では年間計画を見通して、単元によって加配教員の配置を事前に決め、単元を入れ替えるなど工夫した。

4 成果

- ・学力調査の分析結果から、本校の課題を設定し、研究授業を通して授業改善を図り検証していく流れを、全職員が共通理解し確立した。